

ETAJIMA GoON! Vol.57

EBK48 (エタジマビーキーパーズ)

やまね まさひこ
山根 真彦 さん

【活動紹介】

ニホンミツバチの養蜂、ミツロウワークショップ、猪ハンター、にわとり飼育など江田島市で自分のやりたいことを行いながら、その経験を伝えるワークショップを開催している。

ニホンミツバチの養蜂や巣箱づくり、ミツロウを使ったワークショップではハンドクリームやリップスティック、ロウソクを作ることができる。

やりたいこと事を全部やる

「自給自足ができるのとは、思い、足りないモノを考えた。『甘いもの』でいいから、養蜂ができたことを知り、独学で巣箱を作った。この時採れた蜂蜜の味がおいしくて、養蜂の深みへはまっ



「自給自足ができるのとは、思い、足りないモノを考えた。『甘いもの』でいいから、養蜂ができたことを知り、独学で巣箱を作った。この時採れた蜂蜜の味がおいしくて、養蜂の深みへはまっ

少し照れながらこれまでやってきたことや、これからやりたいことを楽しそうに話す山根さんは、多くの人に自分の経験や知識を伝えることで、「やってみたいけど諦めてしまった方」の背中をそっとPUSHしている。知識の共有をすることで喜びも共有し、また別の人に伝える。ミツバチのように江田島市内を飛び回り、関わる方をあま〜い気持ちにするのだろうか。

「よろしくお願ひします。」
いただいた名刺に書かれた肩書や言葉に加え、『蜂蜜なめた場合じゃねえ』と書かれたTシャツでいきなり人柄が気になった。
看護師をしながらニホンミツバチの養蜂やミツロウを使ったワークショップを行う山根真彦さんは、9年前に庄原市から移住。当時テレビで紹介された江田島市に興味を持ち、遊びに来た。その時出逢った方や江田島市の自然に魅了され、移住を決断した。「当初は家庭菜園をしながらゆっくり生活したいと思っていました。『ゆっくりと生活するはずだった日常は、猪との出会いから変わった。家庭菜園を荒らす猪を捕獲し、責任を持って食した。『言葉にならない感情でした。』これをきっかけに江田島市でできることが増えていった。」

話の途中で名刺にかかれていた肩書を思いだし、納得した。「江田島でやりたい事全部やる男」まさに山根さんを表すにはこれ以上の言葉が思いつかなかった。
自分のやってみたいから始めた養蜂も、多くの人に会うことで、『やりたいけど諦めている人が多い』ことに気づいた。「自分が手伝えること喜びを感じてもらいたい。」この思いから養蜂や蜂蜜の巣箱づくり、ミツロウワークショップを行うようになった。

「学校で行うことが目標」と語るとおり広島PUSHプロジェクトは広島県内の学校を中心に、企業や市民の方に短時間で多くの方に学んでもらえるように活動を行っている。
胸やAEDのボタンをPUSHするだけでなく、山根さんの優しい言葉で多くの方が勇気を持って行動できるように背中をPUSHしている。

活動紹介 MitsuroUtsukuro etajima PUSH Instagram

つむぐ通信

シリーズ連載 その120

- 【江田島市地域おこし協力隊】
- 観光事業総合プランナー 山田 京子
- オーブブランドクリエイター 鉄増 千夏
- 里海コーディネーター 向井 綾香
- プロモーション推進員 西尾 国弥
- 沖まちづくり協力隊 前谷 圭祐
- 観光事業総合プランナー ザミラ クマー
- 大柵高等学校活性化コーディネーター 前田 脩人

今月は
向井 綾香 さん

「つむぐ通信」では、地域おこし協力隊員が、月替わりで活動内容やイベントなどのお知らせ、地域おこしに関する企画や提案を紹介していきます。



Instagramで情報を発信しています

江田島市地域おこし協力隊

こんにちは！地域おこし協力隊の向井綾香です。2年目を迎えました。昨年度は多くの皆様に支えていただき、実りある1年となりました。今年度も、豊かな自然と温かい人々に触れながら、私自身も楽しみつつ、江田島市の魅力をさらに掘り起こしていく活動を続けたいと思います。
今回は、昨年6月より制作を進めていた「えたじまさとうみぼん」についてご紹介させていただきます。
副読本「えたじまさとうみぼん」が完成！
江田島市が全小中学校で推進している「さとみ学習」の一環として、子どもたちがふるさとを学び、魅力に気づき、もっと海を好きになって欲しいという願いを込めた副読本「えたじまさとうみぼん」が完成し、市内全小中学生（小学5年生〜中学3年生）へ配付をしました。
この副読本は、江田島市の海の「導入編」として市内の海で楽しめるアクティビティを紹介する「もっと身近に海を楽しむ」、危険な場所の確認やもしもの時の対応をまとめた「安全な過ごし方を知る」、そして本市で行われている海の保全活動をまとめた「未来の海を知る」という3つの柱で構成されています。
海は身近な風景である一方で、常に危険も隣り合わせ。子どもだけで行かせるには不安な場所もありますが、学校での学習や体験活動を通して、正しい知識を身につけながらふるさと

海や暮らしの魅力に触れるきっかけにしたいと考えています。
これからの季節、海での活動が本格化します。えたじまさとうみぼんを通して、事前学習の教材として海を学び、安全に思いっきり楽しんで欲しいなと思います。次年度からは、マリナードベンチャーやSUP、カヌー体験、野外活動を行う小学5年生に配付する予定です。えたじまさとうみぼんは、さとみ科学館でご覧いただけますので、お気軽にお声がけください！
えたじまさとうみぼん「はげれ話」
制作にあたってのこぼれ話をご紹介します。教育委員会やさとみ科学館と協議を重ね、市内で海の活動に取り組む方々への取材を通じて、子どもたちのメッセージを詰め込みました。そして、制作チームの一人、学習の入口となるイラストの作画を担当したのは、本市出身のデザイナー・平井千晴さん。平井さんは現在も続く「ふるさと自然」作品コンクール（主催：さとみ科学館）において、小学1年生から中学3年生まで9年連続入賞という驚異の記録の持ち主。毎年夏休みに生き物を細かく観察し、書き続けた経験が、現在のデザインの仕事の原点になったそうです。一度は市外へ出た平井さんが、再び江田島市へ戻り、かつて自分が学んだ「さとみ学習」を今の子どもたちに伝える側として参加してくださったことは、とても感慨深い出来事でした。

カラフルな表紙は、市内の子どもたちのワークショップで生まれたものです。江田島市の海の生き物をテーマに「紙版画」で制作した作品たちは、どれも個性豊かで愛らしい表情。プロの技術と子どもたちの感性、そして海の専門家の知恵がコラボしたこだわりの一冊になりました。
里海を考えるワークショップの開催
最近では小中学校だけでなく、大柵高校の生徒に向けた地域探究の授業で、江田島市の里海を考えるワークショップや、地域の古写真を使って、その地域に長く住んでいる方の話を聞いて里海の暮らしを掘り起こすワークショップも行っています。「里海」と聞くと海そのものや環境保全を連想しがちですが、このワークショップでは海を通じてつながる島の魅力的な地域資源を再発見すること、そして想いを次世代へ繋いでいくことをねらいとしています。これまでは学校での活動がメインでしたが、今後はさらに幅を広げて地域の中へも足を運んでいきたいと考えています。「ワークショップをしてみたい」などお気軽にご相談ください！

